

はじめに

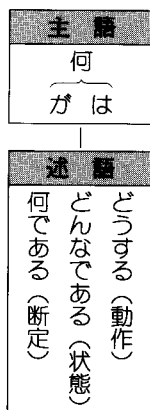
漢文は、数多い受験科目の中で、最も親しみにくく、敬遠されがちな教科であろう。見慣れない漢字が並び、それを読む順序も行きつ戻りつで一定しない。何とか点が採れるようにと立ち向かってみても、いったい何を勉強すればよいのか、学習上のポイントさえつかめない、というのが多くの受験生の悩みだろう。

本書は、こうした悩みを克服しようとする諸君のために、返り点や送り仮名の初歩から、基本句形・重要単語、漢詩、故事成語にいたるまで、受験に必要なすべてをまとめたものである。これらのうち、とりわけ入試において重要なものは基本句形と重要単語であり、その整理と解説には特に力を注いだ。受験生諸君もこの点に留意したうえで、本書を簡便な「辞書」兼「文法書」として、うまく利用してもらいたい。

漢文の基本構造

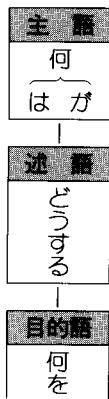
漢文の構造は、日本語とは異なり、ほぼ英語の構造に近い。

1



花
植物^{ナリ} 美^シ 咲^ク

2



仁者愛^ス人^ヲ。

《注意事項》

i 主語(または話題にする語)を表す「ハ」は必ずつけない。

また、主語は省略されることが多い。

ii ②〜④までの述語は、主に動詞である。

【動詞】+【名詞】と並ぶ場合、【名詞】に「ヲ」・「ニ」・「ト」の送り仮名を送り、【動詞】に返って読む。「【動詞】【名詞】【名詞】」これを「ト」会ったら返れ」といおう。

ただし「ト」になるのは、「為^ス・為^ス」
「謂^フ」「思^フ」「為^ス」である。

また、③のように形容詞や形容動詞が述語となる場合は、比較の意味となる。

再読 1	
未 ^ダ ニ — — ^(セ)	読み いまだ—(せ)ず
読み まだ—しない	

三月、嬰兒未^レ知^ニ利害^ヲ也。

①「未」は、「未知」「未熟」などの熟語から明らかのように、行為・状態などがまだ熟していないことを表す。

②「ず」は打消の助動詞であり、文意や接続によつて、活用させなければならぬ。

未 ^ダ	ず	未 ^ダ	ず	ず	ざる	ざれ	ざれ
未熟形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形		

たとえば、「未^ニ—也」のように「なり」(断定の助動詞で連体形接続)に接続する場合、「—ざるなり」と読む。

③「ず」の活用については、「否定」参照。

書き下し文

三月の嬰兒は未だ利害を知らざるなり。

〔淮南子〕

意味

生後三か月の赤ん坊は、まだ何の利害も知りはない。

I 単純否定

5	4	3	2	1
不 ^ズ ニ 不 ^ズ ニ 不 ^ズ ニ (セ)	母 ^{ナカレ} ニ 母 ^{ナカレ} ニ (スル)(コト)	勿 ^{ナカレ} ニ 勿 ^{ナカレ} ニ (スル)(コト)	無 ^{ナシ} ニ 無 ^{ナシ} ニ (スル)(コト)	弗 ^{ナシ} ニ 弗 ^{ナシ} ニ (セ)
—しなければ、 —しない (否定の連用)	—してはいけない (禁止)	—がない —することがない —人がいない	—ではない	—しない

II 二重否定

9	8	7	6
不 ^ズ レ可 ^{ベカラ} レ不 ^ズ ニ 不 ^ズ レ可 ^{ベカラ} レ不 ^ズ ニ (セ)	不 ^ズ 三敢 ^{アヘテ} 不 ^ズ ニ 不 ^ズ 三敢 ^{アヘテ} 不 ^ズ ニ (セ)	未 ^{イマダ} 三嘗 ^{カクテ} 不 ^ズ ニ 未 ^{イマダ} 三嘗 ^{カクテ} 不 ^ズ ニ (セ)	無 ^{ナシ} レ非 ^{アラザル} ニ 無 ^{ナシ} レ非 ^{アラザル} ニ (セ)
—しなければならぬ —すべきだ	—しないわけにはいかない	—いつもきつと—した	—どんなAでもみな—する —でないもの(こと)はない —みな—である